

# 平成28年度事業報告書

学校法人 二松學舎

## 目 次

I	法人の概要	.....	1
II	事業の概要	.....	5
III	財務の概要	.....	18
	監査報告書	.....	25

## I. 法人の概要

### 1. 沿革

二松学舎は、明治 10 年に先師中洲三島毅により「漢学塾二松学舎」として創設され、建学の精神「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」により東洋学の確立と新時代を担う国家有為の人材の育成を目指した。その後、昭和 3 年には旧制専門学校となり、国語・漢文の教員養成に注力し、「国漢の二松学舎」として東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践に努めてきた。戦後復興期、昭和 24 年に新制大学に移行、文学部国文学科・中国文学科の単科大学として伝統を堅持し発展、さらに平成 3 年に国際政治経済学部を開設した。一方、昭和 23 年に二松学舎大学附属高等学校が、昭和 44 年に二松学舎大学附属沼南高等学校(現附属柏高等学校)が設置され、平成 23 年 4 月、附属沼南高等学校は附属柏高等学校に校名を変更し、新たに二松学舎大学附属柏中学校を開校した。平成 24 年 10 月に創立 135 周年を迎え、これを機に、二松学舎のあるべき将来像を定めた「長期ビジョン(N'2020 Plan)」公表し、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を計画し、平成 25 年度より推進している。現在、設置する学校と学部・学科等の概要は以下のとおりである。

### 2. 所在地

学校法人二松学舎

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

#### (1) 二松学舎大学

九段キャンパス

102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

柏キャンパス

277-8585 千葉県柏市大井2590番地

#### (2) 二松学舎大学附属高等学校

102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号

#### (3) 二松学舎大学附属柏高等学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

#### (4) 二松学舎大学附属柏中学校

277-0902 千葉県柏市大井2590番地

### 3. 設置する学校・学部・学科等

#### (1) 二松学舎大学

大学院

文学研究科

国際政治経済学研究科

文学部

国文学科

中国文学科

国際政治経済学部

国際政治経済学科

#### (2) 二松学舎大学附属高等学校

#### (3) 二松学舎大学附属柏高等学校

#### (4) 二松学舎大学附属柏中学校

#### 4. 入学定員・学生数等の状況

<大学院>

(単位:人)

研究科	専攻	博士前期課程(修士課程)			博士後期課程(博士課程)		
		入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
文学研究科	国文学専攻	16	32	18	5	15	7
	中国学専攻	16	32	5	5	15	7
	計	32	64	23	10	30	14
国際政治 経済学研究科	国際政治 経済学専攻	10	20	7	—	—	—
合計		42	84	30	10	30	14

<学部>

(単位:人)

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
文学部	国文学科	260	1,040	1,281
	中国文学科	140	560	647
	計	400	1,600	1,928
国際政治経済学部	国際政治経済学科	200	800	902
合計		600	2,400	2,830

<中学校・高等学校>

(単位:人)

学校名	学科	入学定員	収容定員	生徒数
二松学舎大学附属高等学校	全日制普通科	300	900	755
二松学舎大学附属柏高等学校	全日制普通科	280	840	1,004
二松学舎大学附属柏中学校	全日制普通科	102	306	141
合計		682	2,046	1,900

(注)人数は平成28年5月1日現在の値を示す。

#### 5. 役員等・教職員の概要

##### (1) 役員等・教職員数

- ①役員等 理事 11人 (うち、理事長1人、常任理事3人)  
 監事 2人  
 評議員 24人

##### ②教職員

(単位:人)

教員	二松学舎大学	73
	二松学舎大学附属高等学校	37
	二松学舎大学附属柏高等学校	44
	二松学舎大学附属柏中学校	14
	計	168
職員	二松学舎大学	82
	二松学舎大学附属高等学校	7
	二松学舎大学附属柏高等学校	4
	二松学舎大学附属柏中学校	
	計	93

(注)人数は平成28年5月1日現在の値を示す。

表中の教員には非常勤教員を含まない。非常勤教員の人数は、二松学舎大学 189人、二松学舎大学附属高等学校 21人、二松学舎大学附属柏高等学校 35人、二松学舎大学附属柏中学校 2人である。

## (2) 役員

役 職	氏 名
理 事 長	水 戸 英 則
常 任 理 事	五 十 嵐 清
常 任 理 事	西 畑 一 哉
常 任 理 事	菅 原 淳 子
理 事	長 谷 川 成 樹
理 事	本 城 学
理 事	江 藤 茂 博
理 事	中 山 政 義
理 事	小 町 邦 明
理 事	野 口 誠 之
理 事	大 野 信 行
監 事	溝 田 泰 夫
監 事	根 本 義 尚

## (3) 評議員

氏 名	
菅 原 淳 子	小 林 公 雄
長 谷 川 成 樹	七 五 三 和 男
本 城 学	齊 藤 定 市
山 崎 正 伸	五 十 嵐 清
江 藤 茂 博	小 町 邦 明
中 山 政 義	水 戸 英 則
真 瀬 垣 成 隆	野 口 誠 之
島 田 達 彦	大 野 信 行
高 林 由 美 子	小 出 秀 文
高 柳 幸 雄	西 畑 一 哉
菅 原 義 博	渋 澤 健
廣 田 克 己	野 島 透

(注)平成 28 年 5 月 1 日現在

## (4) 大学・両附属高等学校の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
学 長	菅 原 淳 子
副学長	高 野 和 基
副学長	磯 水 絵
大学院文学研究科長	江 藤 茂 博
大学院国際政治経済学研究科長	中 山 政 義
文学部長	江 藤 茂 博
国際政治経済学部長	中 山 政 義
附属図書館長	土 屋 茂
国際交流センター長	塩 田 今 日 子
情報センター長	瀧 田 浩
教職支援センター長	若 井 田 正 文
キャリアセンター長	佐 藤 晋
東アジア学術総合研究所長	高 山 節 也
学務局長	森 野 崇
二松学舎大学附属高等学校	
校 長	本 城 学
副校長兼教頭	真 瀬 垣 成 隆
二松学舎大学附属柏高等学校	
校 長	長 谷 川 成 樹
副校長兼教頭	七 五 三 和 男
二松学舎大学附属柏中学校	
校 長	長 谷 川 成 樹
副校長兼教頭	島 田 達 彦

(注)平成 28 年 5 月 1 日現在

## (5) 事務組織の主要役職者

役 職	氏 名
二松学舎大学	
事務局長	小 町 邦 明
総務・人事部長	菅 原 義 博
企画・財務部長	西 畑 一 哉
大学改革推進部長	飛 田 正 太 郎
教学事務部長	西 園 隆 士
附属図書館事務部長	高 柳 幸 雄
キャリアセンター事務部長	高 林 由 美 子
附属高等学校	
事務長	大 淵 俊 明
附属柏中学・高等学校	
事務長	横 谷 孝 子

(注)平成 28 年 5 月 1 日現在

## 6. 最近の入学者数、在籍者数、納付金、教職員数の状況

## (1) 入学者数

(単位:人)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
大 学	大学院	18	14	16	14	18
	学部	709	711	713	697	730
附属高等学校		253	240	262	251	249
附属柏高等学校		258	308	344	358	314
附属柏中学校		46	64	61	43	43
計		1, 284	1, 337	1, 396	1, 363	1, 354

## (2) 在籍者数

(単位:人)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
大 学	大学院	55	40	44	43	44
	学部	2, 991	2, 949	2, 860	2, 826	2, 830
附属高等学校		686	682	739	745	755
附属柏高等学校		680	790	899	997	1, 004
附属柏中学校		123	185	166	162	141
計		4, 535	4, 646	4, 708	4, 773	4, 774

## (3) 1人当り学生生徒等納付金(平成 28 年度)

(単位:千円)

			入学金	授業料	施設費等	計
大 学	大学院	前期・修士	250	520	100	870
		後期・博士	250	520	70	840
	学部	280	746	250	1, 276	
附属高等学校			220	372	208	800
附属柏高等学校			150	300	330	780
附属柏中学校			200	348	330	878

#### (4) 本務教職員数

(単位:人)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
大学教員	69	71	74	74	73
高等学校教員	77	75	74	76	81
中学校教員	9	11	13	15	14
事務職員	79	84	85	92	99
計	234	241	246	257	267

(注)各年度5月1日現在

教職員数は、①学生数に対応する基本的な教職員数の維持、②大学院の教育・研究のための適正人員の確保、③教育・研究支援体制の充実を視野に入れた適正人員の確保、④専任職員と補助職員の業務内容などの雇用制度等を基に決定している。

## II. 事業の概要

### 1. 法人(理事会・評議員会など法人事項に係る管理運営)

#### (1) 長期ビジョン「N'2020 Plan」による改革の推進

二松学舎創立135周年(平成24年10月)を機に長期ビジョン「N'2020 Plan」を策定した。平成25年度より、これに基づく「アクションプラン」に則って大学・両附属高校・中学校の具体的な改革を推進している。

#### ◆全学アクションプランの概要と5つの柱

##### 1. 建学の精神の再確認と「二松学舎憲章」

###### (1) 基本フレームワークの構築

- ①建学の精神の再確認
- ②建学の精神の現代的解釈
- ③育成する人材を明確化した各学校のビジョンの策定

###### (2) 「二松学舎憲章」の制定

- ①建学の精神の発揚
- ②教育・研究の目標達成
- ③学生生徒支援
- ④社会貢献

##### 2. 人材育成に向けた教育改革

###### (1) 教育のビジョン

###### (2) 教育の目標

###### (3) 教育の実践

###### (4) 大学の規模拡大を検討

##### 3. 包括的學生生徒支援体制の構築

###### (1) 学生生徒支援の取り組み

###### (2) 進路支援

###### (3) 学生や父母のニーズへの対応、父母会・松苓会(同窓会)等との連携強化

###### (4) クラブ・サークル活動支援

##### 4. キャンパス整備

###### (1) 二松学舎大学のキャンパス整備

- ①九段キャンパス
- ②柏キャンパス
- (2) 附属高等学校のキャンパス整備
- (3) 附属柏中学校・高等学校のキャンパス整備
- 5. 財政、人事・評価制度、組織、広報体制の在り方
  - (1) 財政
  - (2) 教職員人材の育成
  - (3) 人事制度と公正な評価制度
  - (4) 能力開発、研修制度
  - (5) 組織・権限
  - (6) 戦略的な広報体制、広報活動

◆平成 28 年度アクションプランの概要

- (1) 創立 140 周年記念事業関係
- (2) 高大接続の実質化
- (3) 文学部の改革（新学科の開設準備、国文学科の見直し）
- (4) 国際政治経済学部の改組検討
- (5) 授業アンケート等を活用した組織的な FD の実施
- (6) 学生満足度調査の実施
- (7) 国際交流の活性化
- (8) 地域・他大学等との連携強化
- (9) 研究活動の推進（戦略的研究基盤形成支援事業、秋葉原での研究拠点構築）

アクションプランは管理体制の整備、経営層と部課長のミーティング、アクションプランの PDCA サイクルによって進捗管理を行っており、これまでの成果として、理事・教職員等が本学の将来の姿、進むべき方向について共通の認識を持つようになり、各部門で改革を進める意識が強くなったこと、各課長が各課の課題を多面的・巨視的に把握するようになり、現場だけでは解決が難しい課題を組織へ吸い上げる体制が確立された。なお、具体的な成果等詳細は「アクションプラン年次報告書」に取りまとめ、パンフレット及びホームページで公表している。

(2) 施設設備の整備

大学では、九段校舎 1 号館地下 1 階トイレ改修整備、柏校舎 3 号館(体育館)及び 6 号館(武道館)耐震工事、柏校舎 1 号館空調工事のほか、文学部で「都市文化デザイン学科」新設に伴い、ポップカルチャーが集結する秋葉原に日本文化の発信拠点として新たに「アキバラボ」を開設した。附属高校では、放送室放送設備の更新、校内無線 LAN の敷設、九段校舎南面外壁の補修工事を実施し、附属柏中学・高校では、校舎のバリアフリー化と屋外通路の屋根設置工事、パソコン教室機器類の更新、生徒用ロッカーの増設を行った。また、140 周年記念事業の一環として、本学にゆかりのある夏目漱石のアンドロイドを大阪大学大学院、朝日新聞社と協力して作成した。「漱石アンドロイド」には、講義・授業用のプログラムを搭載し、大学・高校・中学での講義・授業やシンポジウムの開催などを予定している。

(3) 被災学生への支援等

大学において、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故及び平成 27 年 9 月 10 日の北関東・東北豪雨に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免措置を引き続き実施した。

(4) イベント

- ①『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA - (11 月 19 日)
- 会場: 九段校舎 1 号館中洲記念講堂 参加者: 307 人



『論語』入門 文学部教授 牧角悦子

中国における儒教の変遷と歴史 日本私立学校振興・共済事業団理事長 河田悌一

庶民の分度—上田秋成と『論語』— 文学部教授 野間文史

素読実践 名誉教授 石川忠久

## ②大学資料展示室企画展等

### ■九段キャンパス

#### ○展示

資料で迎える二松学舎(常設展示)

近代作家の草稿(4月1日～5月7日)

ちりめん本の世界(5月9日～7月2日)

三島中洲と近代 其四—小特集 戦争と漢学(5月23日～6月25日)

東京文学散歩(9月5日～10月30日)

二松学舎と論語(11月10日～30日)

芳野金陵展(12月12日～2月28日)

二松学舎創立者 三島中洲／二松学舎で学んだ夏目漱石(3月22日～31日)

#### ○講演会(6月4日)

三島中洲の経学 文学部教授 田中正樹

会場:九段校舎1号館401教室

### ■柏キャンパス

学祖 三島中洲(4月6日～5月21日)

街に歌が流れてた(6月1日～7月30日)

横溝正史ミステリーと地図(10月17日～11月30日)

美しい本 美しい絵(12月12日～2月28日)

新入生にお薦めの本(3月1日～4月30日)

#### ○講演会(11月11日)

地図がはぐくむ想像力—横溝正史と軽井沢— 文学部教授 山口直孝

会場:柏校舎1号館306教室

#### ○柏市内大学図書館見学バスツアー(11月26日)

(柏市立図書館、開智国際大学図書館、東京大学柏図書館、二松学舎大学附属図書館(柏)、麗澤大学図書館)

#### ○知的書評合戦 ビブリオバトル(11月26日)

会場:開智国際大学図書館2階 こもれびホール

## ③公開講座等

### ■柏キャンパス

#### ○生涯学習講座 (年間44講座 全10回)

春 Semester (5月11日～7月28日) 22講座 全5回

秋 Semester (9月27日～12月14日) 22講座 全5回

#### ・国文学

源氏物語—「若紫」巻の購読、万葉挽歌の流れ、愛の変奏曲—森鷗外を読む、男と女—王朝の愛『伊勢物語』、日本芸能論—謡曲(能)を読む—、万葉・大伴家の三大歌人

#### ・中国文学

名詩鑑賞、李白・杜甫詩を読む、漢文購読講座—一般から周へ—

#### ・書道

中字かなによる俳句の書作品、蘇軾・黄庭堅から新たな書表現を学ぶ、書かない書道、いろいろな楷書(造像記を書こう)

#### ・語学

ドラマで学ぶやさしい韓国語、初級英語

・古典芸能

追悼 蜷川幸雄 併せてシェイクスピア没後 400 年祭

・経済・教養

シルクロードの光彩、日本と大陸(中国・朝鮮半島)の交流を学ぶ、日本史探訪—江戸のなぜ

・国際関係

韓国現代事情のあれこれ(応用編)

・スポーツ・健康

フィットネス・トレーニング

■九段キャンパス

○「二松学舎大学のお宝展 —創立 140 周年記念—」(3 月 10 日～12 日)

場所:三省堂書店神保町本店 イベントスペース

< 原本展示 > (二松学舎大学附属図書館蔵書)

奈良絵本『保元物語』『平治物語』『咸陽宮』

近代作家草稿 横溝正史『八つ墓村』 吉行淳之介『カストリ』 水上勉『うるし壺の話』 寺山修司  
『時間よ止まれ、きみは悪魔だ』

< 講座・講演 >

「中世の音楽—平曲の魅力—」(3 月 10 日)

「鴨長明『発心集』より—軍記と説話—」(3 月 10 日)

「奈良絵本の絵本ができるまで—悪源太義平物語を中心に—」(3 月 11 日)

「奈良絵本『保元・平治物語』の変体仮名を解説しよう」(3 月 11 日)

「沖山光—近代国語教育に遺した足跡—」(3 月 11 日)

「雷神—敦煌からの旅路」(3 月 12 日)

「作詞家水木かおるの魅力」(3 月 12 日)

「不思議の街を科学する: 神田古書店街の背後にある経営学」(3 月 12 日)

「大学生と歩いた気分!! 千代田まち歩きまっふ」(3 月 12 日)

○「漱石アンドロイドと漱石研究の「これから」」(3 月 12 日)

作品朗読と解説 漱石アンドロイド

「漱石と漢語」 文学部教授 増田由美子

場所: 九段校舎 1 号館中洲記念講堂

## 2. 大学(学部・大学院)

### (1) 教育・研究の推進

#### ① 文学部の改革(新学科の開設準備)

文学部がこれまで培ってきた日本文学・文化研究をベースに、新しいメディアやコミュニケーションスキルを習得し、価値のある文化を見出し、世界へと発信できる人材を育成するため、平成 29 年度より新たに都市文化デザイン学科を設置する。

#### ② 東アジア学術総合研究所

本学の研究プロジェクト『近代日本の「知」の形成と漢学』が、【文部科学省】平成 27 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、SRF 事業として2年目となった。

〔期間〕平成 27 年度～平成 31 年度(5 年間)

〔内容〕日本の近代化が進行した 19 世紀～20 世紀前半、「漢学」(漢文による学び) が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間形成・社会秩序形成をしたかを実証する。

平成 16 年度に採択された 21 世紀 COE プログラムは平成 21 年 3 月に 5 年間の研究支援期間の後、東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室が引き続き COE の事業を推進しており、これまで、漢文文献資料の調査・収集とデータベース化、情報公開、国際シンポジウムや海外研究者の招聘による

講演会・公開講座・講習会の開催など、広範で活発な研究教育活動を行い、人材育成にも力を注いでいる。また、海外での日本漢文講座をヨーロッパ、アジア諸国で展開するほか、インターネットによる授業も行っている。

#### <海外講座>

イギリス ケンブリッジ大学 エマニュエルカレッジ ハロッズルーム (8月1日～13日)

サマースクール 江戸の書き言葉

ハンガリー 国立エトヴェシュ・ロラード大学 (10月17日～21日)

大学院集中講義 漢文訓読および漢文学に関する講義・講読

一般市民向け講演会 漢字の話

上級日本語学習者向けセミナー 古代日本に於ける中国文化の受容と翻訳

フランス 国際交流基金パリ日本文化会館

講座 古代日本に於ける中国文化の受容と翻訳 (10月14日)

講演会 日本語学習者の皆さんへ 漢字からのメッセージ(2月25日)

フランス リール第3大学 (2月20日～22日)

講義 19世紀の日本語(書きことば) (学部・修士合同講義)

漢文訓読法の指導および日本漢文学に関する概説的な講義・演習

ワークショップ(2月23日・24日) 19世紀の日本語(書き言葉) 『柳橋新誌』 対象:大学教員

#### <シンポジウム>

現代の政策を科学する(10月15日)

講演

二松学舎大学の国際政治経済学 国際政治経済学部教授 渡辺和則

現代日本の財政・金融政策のミクロ経済学的評価

東アジア学術総合研究所特命教授 野村芳正

政治・行政・政策－政権と官僚機構の関係はどうあるべきか－

後藤・安田記念東京都市研究所理事長 新藤宗幸

会場:九段校舎1号館202教室

#### <刊行物>

「雙松通訊」第21号

「日本漢文学研究」第12号

#### ③教員免許状更新講習の実施

教育職員免許法の改正に基づき、平成21年度より教員免許更新制度が導入された。これに伴い、本学卒業生教員をはじめ多くの教員を対象に免許状更新講習を開設し、本年度は8月8日～12日の日程で、最新の教育事情と子どもの発達・生活、教育課程の改善と学校運営、現代における生徒育成上の課題、現代文・古典・書道の教材と指導法などを主な講習内容として実施した。

#### ④海外協定校への相互訪問等

協定校との関係をより堅固なものとするため、教職員の定期的な相互派遣を行っている。本年度は中国・北京大学歴史学系から何晋教授が1月26日～2月2日の日程で本学に来訪され、本学からは3月1日～6日の日程で河原田有一国際政治経済学部教授が北京大学歴史学系を訪問し、講演会や教員交流が行われた。また、2月21日～22日には、海外協定校の周口師範学院から劉湘玉学長をはじめ、王剣陳楚文化研究所長、李清臣科学技術研究所長、魏深義外国語学院副院長の4名が来訪され、今後の交流内容に関する様々な意見交換が行われた。

#### ⑤入学前教育・初年次教育の実施

新入生のモチベーションを高め、教育効果をより確かなものとするため、文学部・国際政治経済学部両学部においてAO入試・推薦入試の合格者に対し「入学前教育」を、入学後の新入生に対し学部ごとの「初年次教育」の実施や講演会などを開催した。

国際政治経済学部では入学時のプレースメント・テスト、英語習熟度クラス分けテストを実施し、両学部

ともに、出口のレベルアップを目指すべく、初年次から「キャリア教育」の授業を開講し、正課「キャリア教育」と「就職支援講座」との連携を図っている。

#### ⑥シンポジウム・講演会・展示会等の開催

本年度も国文学などの各種シンポジウムを開催し、本学の教育研究成果を学外へ広くアピールすると共に学内の活性化を図っている。大学資料展示室では二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の初版本・草稿類など文学界にとって貴重な資料を収集し、年間を通して各種企画展を開催している。

#### ■平成 28 年度柏市キャリアアップ研修講座(5 月 15 日)

メシが食える大人の育て方 NPO 法人花まる学習会 高濱正伸

会場: 柏校舎 1 号館 205 教室

対象: 柏市立小・中学校教員 80 人

#### ■平成 28 年度柏市教職員国語教育研修講座(8 月 5 日)

古典文学とモノケ ーゲームによるモノケ退治ー 文学部教授 小山聡子

会場: 柏校舎 1 号館 205 教室

対象: 柏市立小・中学校教員 80 人

#### ■茨城県高等学校国語科教員対象国語科国語(漢詩・漢文、古典)講習会(8 月 18 日)

紫式部は伊勢物語と大和物語の読者だった 文学部教授 山崎正伸

漢詩を味わう - 杜甫を中心に 名誉教授 石川忠久

会場: ホテルビュー水戸 参加者: 99 人

#### ■二松学舎大学卒業神奈川教員の会(8 月 20 日)

さるがう - 『枕草子』に見る「遊び」的側面 文学部教授 原由来恵

会場: 九段 1 号館 201 教室 参加者: 29 人

#### ■二松学舎大学卒業埼玉県教員の会(12 月 3 日)

漱石と子規 - その贈答詩をよむ - 名誉教授 吉崎一衛

会場: 九段 1 号館 202 教室 参加者: 25 人

#### ■二松学舎大学教育研究大会(9 月 25 日)

講演: 婚姻制度から見た『大和物語』と『源氏物語』 文学部教授 山崎正伸

分科会: 「特別支援教育」、「中学校 国語」、「高等学校 国語」

会場: 九段校舎1号館中洲記念講堂 参加者: 249 人

#### ■文学部シンポジウム(10 月 15 日)

たたかう文学部のリアル

##### 第 1 部

『2014.3 名古屋大学文学部シンポジウム「文学部の逆襲」』その後 - 文学部に何が起こったのか -

塩村 耕 (名古屋大学大学院文学研究科教授)

多田一臣 (文学部教授)

##### 第 2 部

たたかう文学部のリアル - 文学部はどう考えるのか -

酒井 敏 (中京大学文学部教授・文学部長)

植木朝子 (同志社大学文学部教授・文学部長)

藤田高夫 (関西大学文学部教授・文学部長)

協同討議 文学部のリアル 「文学部」という教育・研究共同体

会場: 九段校舎 1 号館中洲記念講堂

#### ■私立大学学戦略的研究基盤形成支援事業『近代日本の「知」の形成と漢学』

##### <シンポジウム>

○東アジア修身初翻訳と文明転換の論理 (7 月 14 日・15 日) 釜山大学密陽キャンパス

○近代東アジアの漢学と文献研究 (12 月 25 日) 上海師範大学新文化大樓会議室

○「論語」と「算盤」が会おう東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲

(1月21日) 九段校舎3号館3021教室

(1月31日) 倉敷市立美術館3階講堂

○東アジアの近代化と漢学(2月11日)

会場: パリ第7大学 グラン・ムーランC棟4階479号

○漢文脈の漱石(3月11日・12日)

講演 漱石と漢詩文——修辞から世界へ 東京大学教授 齋藤希史  
報告

〈文〉から〈小説〉へ—漱石作品における漢語・漢文脈と読者 天理大学教授 北川扶生子  
蔵書を用いた漱石漢詩読解の試み—『漾虚碧堂図書目録』所載文献に焦点をあてて

慶應義塾大学准教授 合山林太郎

夏目漱石の「風流」—明治人にとっての漢詩 文学部教授 牧角悦子

研究発表

漢学塾のなかの漱石—講義録・証言でたどる「教養」形成 SRF 研究助手 阿部和正

〈趣味〉を偽装する—夏目漱石と近代日本の社交文化 東京学芸大学専任講師 伊藤かおり

夏目漱石の「趣味」(テイスト)価値判断の基準としての感情 東北大学大学院 木戸浦豊和

漱石晩年の思想と漢学の伝統—西田幾多郎との比較から 近畿大学非常勤講師 藤本晃嗣

<国際会議>

近代漢学における東アジア共同研究の可能性 —二松学舎大学の取り組み—(12月1日)

会場: 松島コンベンシア(韓国)

<講演会>

山田方谷と三島中洲(5月1日) 文学部教授 町泉寿郎

会場: 倉敷市物語館

幕末明治の備中・備前の名士たち—三島・野崎・大原—(7月14日) 文学部教授 牧角悦子

会場: 倉敷公民館

山田方谷の思想—『孟子養氣章或問圖設』の「圖」を中心に—(8月20日) 文学部教授 田中正樹

会場: 井原市民会館

明治期の咸宜園関係の漢詩人たち(12月5日) 名誉教授 石川忠久

会場: 日田市役所7階大会議室

<公開講座>

特別講座(10月1日、11月5日、12月10日、1月21日、2月4日)

幕末・明治の漢詩 石川忠久 名誉教授

幕末・明治の漢文 佐藤保 名誉教授

会場: 二松学舎大学九段4号館

平賀晋民の世界(3月18日)

平賀晋民の人と学問 特別招聘教授 稲田篤信

平賀晋民と四書五経 特別招聘教授 野間文史

会場: 三原市中央公民館2階中講堂

■東アジア学術総合研究所共同研究プロジェクト

<ワークショップ>

大西巨人の現在 文学と革命(2月25日)

会場: 九段校舎1号館401教室

■全国漢詩コンクールの開催(大学生・中学生・高校生対象)

入賞者発表: 10月17日 表彰式: 11月23日 応募総数: 143件

学生 作詩部門(優秀賞2件 佳作4件 入選5件) 応募: 66件

生徒 作詩部門(優秀賞1件 佳作3件 入選3件) 応募: 77件

■ホームカミングデー(10月29日)

- (1) なつかしのあの先生との懇談会 金子茂名誉教授先生、大柳勇治元特別招聘教授
- (2) 交流サロンでお目にかかりましょう 卒業生相互交流、同期会、クラブOB・OG会など
- (3) 最新の4号館へキャンパスツアー 在学生による九段4号館案内
- (4) 卒業生作品展 書・篆刻・写真・絵画等の展

■卒業生名刺交換会(異業種交流会)(2月25日)

会場:ホテルグランドパレス 白樺の間 参加:98名(卒業生55人、学内関係者38人)

■FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)

FD講演会

(7月16日)

大学の課題と取組みについて 学長 菅原淳子

私学経営環境と二松学舎大学 理事長 水戸英則

FD講演会(大学教育学会)参加報告 文学部教授 五月女肇志

(10月27日)

アクティブ・ラーニングは授業改善を進めるか

山形大学地域文化学部教授、FDネットワークつばさ議長 小田隆治

(2月16日)

大学教育学会2016年度課題研究集会参加報告 国際政治経済学部教授 佐藤晋

視覚障害学生の授業支援について

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター講師 宮城愛美

大学職員力判定試験(7月7日～8日)

大学職員サポートセンター

会場:芝浦工業大学 芝浦キャンパス 801 教室

大妻女子大学とのSD協定に基づく合同事務職員研修会

契約と契約書の基本研修(9月1日・2日)

会場:大妻女子大学 千代田キャンパス本館 11 階会議室2

三島中洲生誕地訪問(9月8日～10日)

副学長 磯水絵、教学課長 小西明德、企画・財務課長 島田穂隆

事務職員研修会(9月12日)

変化する環境に対応し、大学改革を支えることのできる職員力の養成

～現状の認識と課題解決のための意識改革の推進～

会場:九段1号館8階802教室

⑦図書館の充実等

図書館利用者が図書館の資料を参照しながらレポートや論文を作成できるよう、九段校舎図書館本館のほか、2号館にラーニング・コモンズを設置している。グループワークエリアや、豊富なPC機器を利用した情報検索エリア、多面プロジェクターや電子黒板が整備されたプレゼンテーションルームなどが配置され図書館とも行き来が可能となっており、利便性の高い学習環境を整備している。また、本学図書館では所蔵している貴重資料のデジタル化を進めており、これまでにデジタル化した『二十一代集』『土佐日記』などの和本や『周易本義通釋』『融堂書解』などの漢籍について、デジタル資料を公開している。

⑧大学の授業に関するアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として、授業における学生の学習成果を教員が確認し授業の改善、学習の動機付け・習慣付け・学習意欲の向上および活用を探る一助とするため、「学生による授業アンケート」を実施している。学生の授業に対する意識調査・分析により、サービス向上や大学全体の今後の教育改善に役立てる。調査結果からは、平成23年度～平成27年度の5年間において、アクティブ・ラーニング等の活動により授業時間外学習時間の増加等が窺える。

⑨学術研究支援等の充実

本学卒業生教員の教育実践支援、教職志望の学生への更なる支援と併せて教育実践に関する総合的な研究調査及び研修等を行うことで広く教育界に貢献することを目的に「教職支援センター」を設置している。同センターでは、本学の卒業教員とのネットワーク強化、求人情報の提供・紹介、論作文添削・模擬面接・個別進路相談、教員採用試験合格講座などにより、教員志望学生の支援を実施している。また、東アジア学術総合研究所では、シンポジウムやワークショップの開催、共同研究プロジェクトの推進および研究成果報告書の刊行を支援している。

#### ⑩地域連携

地域連携及び地域貢献活動の推進・強化を目的として、柏キャンパスに二松学舎大学地域連携室を開設した。地域連携室では、地方自治体・地域団体などとの連絡調整や協定の締結、大学柏キャンパスにおける公開講座や地域活性化に関する業務を行う。

##### ■柏・我孫子地区小学生対象勉強会

夏休みこども研究会 大学教授と奈良絵本を読む(8月6日・7日)

英語勉強会 7月～3月隔週土曜日 全18回

論語で学ぶ「英語の基礎力」「漢字の基礎力」(11月19日)

会場:柏キャンパス1号館205教室

冬休み寺子屋道場 書き初め勉強会(1月7日)

会場:柏キャンパス体育館

##### ■柏市と二松学舎大学との包括的な連携に関する協定

これまで取り組んできた地域貢献活動(柏市との災害協定締結、柏市との共催による教職員研修講座、柏図書館の市民への開放、生涯学習講座等)を取りまとめ、広範な分野で知的・人的・物的資源を相互に活用し、地域社会の持続的な発展に寄与することを目的とした包括連携協定を7月22日に締結した。

##### ■千代田区との連携

千代田区内大学と千代田区との連携協力事務担当者会議(6月21日)

会場:千代田区役所4階401会議室

#### ⑪近隣高等学校との連携協定

平成29年度から「教員養成コース」を設置する千葉県立我孫子高等学校と連携教育に関する協定書を3月28日に締結した。本学が開講する授業科目の履修や出張講義などの連携教育を実施し、様々な協力関係を築いていく。

#### <刊行物>

「二松学舎大学附属図書館 季報」第96号～第99号 二松学舎大学附属図書館

「教職支援センターだより」第12号・第13号 二松学舎大学教職支援センター

「二松学舎大学国際政経論集」第23号 二松学舎大学国際政治経済学部

「二松学舎大学論集」第60号 二松学舎大学文学部

「二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊」第47集 東アジア学術総合研究所

「陽明学」第27号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究室

「国際交流」第38号・第39号 二松学舎大学国際交流センター

「二松学舎新聞」第69号～第71号 学校法人二松学舎

絵本『武士が活躍しはじめた、その頃のお話』

「學」第44号～第46号 学校法人二松学舎

「二松」第31集 二松学舎大学大学院文学研究科

「二松詩文」第39巻第3号～第40巻第2号 二松詩文会

「国際政経」第22号 二松学舎大学国際政経学会

「人文論叢」第97輯・第98輯 二松学舎大学人文学会

「水木かおる記念文庫だより」第8号 二松学舎大学附属図書館(柏) 等

#### (3)学生支援

##### ①学生ポータルサービス・ポートフォリオ

本学では、学外から授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設している。また、学生が自らの目標の達成度を確認し意欲的・継続的に学習に取り組むことができるよう、ポートフォリオシステムを構築している。

#### ②奨学金制度の拡充

学生生徒の就学意欲の維持、退学者の減少や学生生徒募集のためにも、奨学金制度の拡充が重要であり、給付および貸与奨学金制度を設けており、奨学生（給付・貸与）、特待生（中洲賞）、二松学舎サービス株式会社特待生、入試奨学生、外国人特別奨学生、郭火盛奨学生、外国人研究奨励生、松苓会奨学生等奨学生度を拡充している。

#### ③GPAの活用

GPA（科目の成績評価）により、中洲賞（卒業時成績最優秀者）の選考、奨学金選考及びその他の選考、学生指導等に活用している。

#### ④就職・進学支援等

キャリアセンターでは、4年間のキャリア教育プログラムを構築し、1年次から正課授業との連携およびキャリアカウンセラーによる相談の実施により学生のサポート・フォローを行っている。履歴書、ES作成や企業訪問等就職活動全般にわたるガイドブック「キャリアガイド」を作成、3年次生全員に配付し、就職活動への支援ツールとして活用している。自己発見（職業適性）検査をはじめ、公務員試験対策講座の開講、合同企業説明会（創縁会）、企業研究セミナーや業界セミナー、インターンシップ研修のほか、「キャリアデザイン講座」「社長弟子入りプロジェクト」「サービス介助士講座」などの各種講座を実施した。

就職支援センターでは、国語科教員養成特別授業や採用試験対策、教育実習生に対する現職教員による特別講演会の実施など、教員採用試験合格者の増員を図るための各種事業を実施した。また、教育研究大会をはじめOB教員の教育実践等の支援や教育情報等の資料収集および広報誌「教育支援センターだより」の発行などを行った。

大学院への進学については、キャリアセンターや入試課、指導教員が連携し、入試情報や資料の提供をするとともに、進路に関する相談を行っている。また、専門学校等への進学については、キャリアセンターで資料の提供や相談を行っている。

#### ⑤国際交流

国際交流センターでは、短期海外語学研修（韓国・成均館大学校 3月5日から25日、アイルランド・ダブリンシティ大学 3月5日～26日）、海外協定校への派遣留学生および海外協定校からの交換留学生に対する就学支援、その他国際交流イベント（研修旅行、留学生スピーチコンテスト等）を実施した。

平成28年9月にフランス国立リール第三大学、イタリア国立カ・フォスカリ大学と、12月に韓国・釜山大学校にて調印式を実施し、協定を締結した。今後、この3大学との協定に基づき、積極的に国際交流プログラムを推進していく。

平成28年11月26日、九段1号館の学生ホールにおいて、協定大学である大妻女子大学と本学の留学生交流会が開催された。本学の国際交流サポーター（日本人学生）が中心となり、両大学のさまざまな国籍の留学生や関係者など30名が集い日本の文化をテーマに交流を行った。

日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）により、11月29日から12月8日において、浙江工商大学、北方工業大学の大学生、大学院生を受け入れ、「医療と科学－東洋医学と西洋近代医学と科学技術の融合」をテーマに、科学技術体験が実施された。

#### ⑥地区別父母懇談会

大学の現況、学習の状況、学生生活の状況、就職状況等についての説明や個別相談を行っている。平成28年度は、香川県高松市、青森県青森市、秋田県秋田市、栃木県宇都宮市、東京都千代田区、鹿児島県鹿児島市、新潟県新潟市（開催日程順）で開催した。

#### (4) 広報・学生募集対策

少子化が進む中で、文学部・国際政治経済学部とも学生募集広報活動を見直し、多方面から入学者選抜実施方法（入試種別・科目・日程等）を検討し、地方会場および関東地区会場で大学説明会や入学試験を実施した。また、関東地区の志願者獲得の精度を上げるべく、東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城の



各地区別に学生募集特別委員を配置し学生募集対策の強化を図っている。

大学の概要・学部の各専攻・キャリアサポート・教職支援等の紹介をデジタルパンフレットのほか映像として各 2～3 分程度にまとめ、公式ホームページから視聴可能としたほか、SNSによる情報発信を行っている。さらに、本学卒業生教員との連携や地方からの志願者確保、オープンキャンパスや学校見学会の開催、一般入学試験のWeb出願で併願割引制度の導入、特待生制度・奨学金制度の拡充等により学生募集対策の強化を行った。

### 3. 附属高等学校

#### (1) アクションプランに基づく改革

アクションプランに基づき、①附属高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域・社会との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

#### (2) 「集中体育」の実施

土曜日に「集中体育」を実施し、柏キャンパスの人工芝グラウンド、体育施設を利用した体育の授業を学年ごとに実施している。

#### (3) 教育学習環境の整備

生徒用机・椅子・ロッカーの一部入れ替え、放送室設備の取替更新、校内無線 LAN の敷設、九段校舎南面外壁の耐震補修工事を実施したほか、防災設備及び体育館の改修整備を実施した。また、教員へのタブレット導入により、既存の電子黒板やプロジェクターと併用することで教員のICT活用能力を高め、生徒の学習理解度や学習意欲の向上を図った。

#### (4) 広報・生徒募集対策

ホームページでの学校紹介、学校案内パンフレット及び学校紹介 DVD のほか、ほぼ毎日更新される公式ブログ「学舎の窓ー校長室だよりー」による部活動や学園祭、各種学校イベントの様子など、様々な情報を発信するなど詳細な情報発信を行っている。また、志願者増加および定着化のため中学・塾等訪問スタッフの配置や日曜日を利用した生徒・保護者対象説明会や個別相談会、中学校教員・塾対象の学校説明会の実施など効果的な広報活動により生徒募集対策を行った。

#### (5) スクールカウンセラーの配置

生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアの充実を図っている。精神的に不安定に陥りやすい高校生の時期を健やかに過ごせるよう、臨床心理士のカウンセラーが対応している。

#### (6) チューター制度の導入

進路指導の充実と生徒の進路意識の向上を目的に、チューター制度(課外活動講師)を継続して実施している。現役の大学生を講師に迎え、週 1 回、放課後に勉強の仕方や大学の様子など生徒の相談に応じるなど、教員とは一味違った形で進路に向け生徒をサポートしている。

#### (7) 学校評価委員会の開催

「学校評価」及び同校の経営・運営に資するため、有識者及び近隣地域住民より附属高等学校に対する意見を聴取し、学校評価委員会を開催した。

#### (8) 外部講師による補助講習の実施

生徒の学力および進学実績の向上と教育活動の活性化を図るため、通年(放課後)および夏期・冬期に特別講習「学舎(まなびや)」を設置し、3年生の特進・理系コース等を対象に、国語・数学・英語の受験対策講習を実施するとともに、1年生は中学教育補完講習、2年生は2学期から実力伸長講習を実施した。

#### (9) 校外学習等

- ・オリエンテーション:千葉県館山市(4月14日～16日)1年生
- ・歌舞伎教室 卅三間堂棟由来:国立劇場(7月13日)1年生
- ・芸術鑑賞 ミュージカル リトルマーメイド(7月13日)3年生

- ・芸術鑑賞(修学旅行事前指導) ミュージカルひめゆり(7月14日)2年生
- ・語学研修:ニュージーランド・ウェリントン(7月11日～8月3日)1～3年生  
台湾(8月16日～22日)
- ・勉強合宿:千葉県野田市瀬戸クリアビューホテル(8月19日～27日)1・2年生
- ・修学旅行:沖縄県(10月25日～28日)2年生
- ・雪国体験(スキー教室):長野県上田市菅平高原(1月25日～27日)1年生
- ・科学未来館ほか千代田区九段周辺フィールドワーク(3月22日)1・2年生
- ・英語合宿:千葉県野田市瀬戸クリアビューホテル(3月28日～3月31日)2年生

#### <刊行物>

- 「二松だより」第111号～第113号 附属高等学校二松だより編集委員会
- 『文芸二松』第32号 附属高等学校文芸二松編集委員会
- 『研究紀要』第16集 附属高等学校研究紀要編集委員会
- 『松蛭』第61号 附属高等学校生徒会
- 『平成28年度卒業記念文集』附属高等学校第67回卒業生

#### 4. 附属柏中学校・高等学校

##### (1) 附属柏中学校・高等学校の改革

アクションプランに基づき、①附属柏中学校・高等学校の「ビジョン」浸透 ②「人間(ひと)作り」・人格教育 ③愛校心の育成 ④国際化への対応 ⑤地域との連携 ⑥教育の実践・充実等について検討し改革を推進している。

##### (2) カリキュラムの充実

本学の建学の理念のもと、附属柏高等学校との中・高を通じた教育の充実と人材の養成するため、新カリキュラムにより教育体系の更なる充実を図っている。また、一人ひとりの学力を確実なものとするため中学校は、少人数教育と目標進路に合わせ個を尊重した「グローバルコース」「特選コース」「選抜コース」を設置し、柏高校では、学力の向上と人間力の向上を目指し、目標実現に向けたコース別授業を実施している。

##### (3) 教育・学習環境の整備

校舎通路のアスファルト舗装及び屋根の設置のほか、グラウンド防球ネットの増設、ハンドボール設備の増設、各教室へのプロジェクター設置及びパソコン教室の機器リプレース、柏高校生徒数の臨時定員増によるロッカーの増設などを行った。また、中学校ではプロジェクター及びPCの増設などIT機器の拡充を行った。

##### (4) 広報・生徒募集対策

受験生向けの学校案内パンフレットのリニューアルやホームページでの動画による学校紹介、保護者・受験生対象の学校見学会のほかSNSによる情報発信、授業公開や体験授業を行っている。入試広報部を中心に、広報活動、中学・塾等訪問スタッフの配置など募集対策を実施した。

新入生全員がタブレットPCを持ち、自問自答、アクティブ・ラーニング、グローバル人材育成の推進等により、中学校ではハイレベルのグローバルコースへのチャレンジ層が増え、入学者が増加した。

##### (5) 生徒支援

入学から卒業までの生徒支援を行うため、父母の会や同窓会との連携を強化し、意見を聴取して学校運営に反映させている。また、生徒の悩みや保護者の相談に対応するため、専門的知識を有するスクールカウンセラーを校内に配置し、教育相談や学園生活のサポートなどメンタルケアを行っている。さらに、ベネッセが提供する生徒の学力と学習習慣をチェックする「スタディーサポート」や模試のデータなどを活用して学習指導や進路指導を行なうプログラムである「ファイナシステム」を使った担任の面談を増やし、タブレットで情報を共有するなどして効果を上げている。

##### (6) 国際交流

附属柏高校1年生(9クラス)と二松学舎大学の外国人留学生(10人)との交歓交流会を開催(10月27

日)し、留学生の母国紹介や意見交換などの異文化交流を行った。

平成 29 年 3 月 22 日、クリーブランド高等学校(オーストラリア)と本校との間で、生徒・教職員・保護者の相互交流、授業成果・教材・刊行物・情報等の交換を通じて英語圏の学校との交流、国際化への対応、国際交流の充実のため交流協定を締結した。

#### (7) 授業評価等アンケートの実施

自己点検・評価活動の一環として、また、学校を取り巻く環境の変化に対する組織的な取り組みとして、授業改善と学校全体の教育力向上に資するため、生徒による授業評価アンケート、卒業生と保護者の満足度調査を実施している。

#### (8) 地域・社会との連携

中学校では、「沼の教室」の展開により手賀沼周辺地域施設を活用し、「田んぼの教室」では高校同窓会と連携し、手賀沼のそばに田圃を借り、地域在住の OB の指導により田植え・稲刈りを実施している。

また、高校では福祉施設や幼稚園でのボランティア活動、駅前でのユニセフ募金活動、近隣地域の定期的な清掃活動を行っているほか、新たに全校生徒による半日かけた手賀沼クリーンウォークを実施した。

施設面では、OB と大学生が連携した夏休み小学生向け作文教室や書道教室などへの教室貸し出し、また、体育館は柏市の避難施設となっている。

#### (9) 外部講師による補助講習の実施

生徒の学力および進学実績の向上と教育活動の活性化を図るため、外部講師による通年講座として、英語・数学講座を各週 1 回、1 年生は基礎講習、2 年生は発展演習としてそれぞれ実施した。

#### (10) 校外学習等

- ・沼の教室:「北千葉導水ビジターセンター」「鳥の博物館」(5 月 26 日) 中学 1 年生
- ・都市の教室:「国立科学博物館」東京都台東区上野(5 月 26 日) 中学 2 年生  
「国際子ども図書館」「落語」鑑賞 東京都台東区浅草(5 月 26 日) 中学 3 年生  
「水の科学館」「JAL工場」(キャリア教育)(6 月 2 日) 中学 1 年生
- ・校外オリエンテーション:千葉県九十九里(4 月 14 日～16 日) 高校 1 年生、(4 月 20 日～22 日) 中学 1 年生
- ・田んぼの教室:千葉県柏市(5 月 14 日田植え～9 月 10 日稲刈り) 中学 1・2 年生
- ・歌舞伎教室 新皿屋舗月雨暈:国立劇場(6 月 13 日) 高校 2 年生
- ・JICA地球広場訪問(6 月 18 日) 中学グローバルコース
- ・DNA研究所による出前講座～謎のお肉のDNA鑑定～(7 月 8 日) 高校 2・3 年生
- ・芸術鑑賞「ライオンキング」(11 月 12 日) 高校 1 年生
- ・修学旅行:台湾(11 月 7 日～11 日) 高校 2 年生
- ・語学研修:台湾 中国文化大学(8 月 16 日～22 日)  
オーストラリア クイーンズランド(8 月 16 日～22 日) 中学 2・3 年生
- ・サマーセミナー 晴海(7 月 26 日～7 月 29 日) 高校 2 年生  
(7 月 27 日～7 月 29 日) 中学 2 年生
- ・古都の教室 奈良・京都(11 月 16 日～19 日) 中学 2 年生  
大阪・神戸(11 月 17 日～18 日) 中学 3 年生
- ・雪の教室(スキー教室):会津高原(2 月 7 日～10 日) 中学 1 年生
- ・春期勉強会 場所(3 月 25 日～28 日) 高校 2 年生

#### < 刊行物 >

「双松」第 44 号 附属柏高等学校双松編集委員会

「修己治人」第 8 号 附属柏中学校・高等学校

研究論文集「自問自答」第 2 号 附属柏中学校

「双松だより」第 81 号～第 84 号 附属柏中学校・高等学校父母の会

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 施設設備の整備

大学九段校舎1号館地下1階トイレ改修整備、柏校舎3号館(体育館)及び6号館(武道館)耐震工事、附属高等学校九段校舎南面外壁の補修工事、附属柏中学・高等学校校舎のバリアフリー化及び屋外通路の屋根設置など既存施設設備の改修整備を行ったほか、文学部「都市文化デザイン学科」新設に伴い、秋葉原に日本文化発信拠点として「アキバラボ」を開設、また、140周年記念事業の一環として、本学にゆかりのある夏目漱石のアンドロイドを大阪大学大学院、朝日新聞社と協力して作成した。

#### 2. 財務改革の推進

##### (1) 奨学金制度の充実と第3号基本金の増額

大学・附属高校・附属柏高校・附属柏中学校の学校別に奨学金制度を設けている。奨学金制度の充実のため、当年度奨学基金として受け入れた寄付金は第3号基本金に組み入れ、奨学基金を毎年度増額することとしている。本年度は、東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故に伴う被災特別奨学生に対する学納金の減免、経済的困窮学生に対する奨学金、留学生への研究奨励金、交換留学生に対する武永尚子奨学金の給付、中洲賞・特待生への奨学金給付を実施した。

##### (2) 恒常的な募金活動

本法人では二松学舎教育研究振興資金の募金活動を恒常的に行っている。平成28年度は約2,800万円のご寄付をいただき、前年度からの繰越金と合わせて校舎整備、被災学生および経済的困窮学生への支援金(授業料等の減免)の一部として活用し、また、奨学金の基金として第3号基本金に組み入れたほか、残りの資金は平成29年度に繰越すこととした。

##### (3) 事業会社の事業展開

本法人出資の事業会社である二松学舎サービス㈱は本法人の業務の効率化や経費削減等に寄与している。設立11年目を迎え順調に事業を展開しており、同社からは2,100万円の寄付があった。

##### (4) 格付けの取得

格付機関(㈱格付投資情報センター(R&I社))による法人の発行体格付評価を受け、本年度も引き続き「A-」(シングルAマイナス)の格付けを維持した。

##### (5) 資金の効率的運用

資金の運用に当たっては、資金運用規程及びリスク管理体制に基づき慎重な運用を行い、運用収入を確保した。

#### 3. 資金収支計算書(別紙1)

#### 4. 活動区分資金収支計算書(別紙2)

#### 5. 事業活動収支計算書(別紙3)

#### 6. 貸借対照表(別紙4)

#### 7. 財産目録(別紙5)

#### 8. 主な財務比率(別紙6)

## 資金収支計算書

平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	4,041,276,000	4,044,403,380	△ 3,127,380
手数料収入	106,720,000	114,701,120	△ 7,981,120
寄付金収入	49,869,000	54,014,767	△ 4,145,767
補助金収入	898,715,000	897,910,405	804,595
国庫補助金収入	268,131,000	267,621,345	509,655
地方公共団体補助金収入	630,584,000	630,289,060	294,940
資産売却収入	1,600,000,000	1,723,801,416	△ 123,801,416
付随事業・収益事業収入	5,843,000	5,978,894	△ 135,894
受取利息・配当金収入	143,600,000	148,986,576	△ 5,386,576
雑収入	145,535,000	149,642,422	△ 4,107,422
借入金等収入	1,750,000	1,750,000	0
前受金収入	1,045,797,000	1,051,329,992	△ 5,532,992
その他の収入	277,686,000	292,917,129	△ 15,231,129
資金収入調整勘定	△ 1,169,988,000	△ 1,172,988,152	3,000,152
前年度繰越支払資金	2,711,505,000	2,711,504,525	
収入の部合計	9,858,308,000	10,023,952,474	△ 165,644,474
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	2,893,368,000	2,889,376,001	3,991,999
教育研究経費支出	1,215,266,000	1,206,476,450	8,789,550
管理経費支出	483,158,000	463,525,509	19,632,491
借入金等利息支出	23,908,000	23,007,750	900,250
借入金等返済支出	250,250,000	250,250,000	0
施設関係支出	109,402,000	112,877,275	△ 3,475,275
設備関係支出	171,492,000	163,361,404	8,130,596
資産運用支出	1,762,101,000	2,187,573,314	△ 425,472,314
その他の支出	176,467,000	220,368,226	△ 43,901,226
予備費	( 0 )		0
資金支出調整勘定	△ 129,307,000	△ 188,680,290	59,373,290
翌年度繰越支払資金	2,902,203,000	2,695,816,835	206,386,165
支出の部合計	9,858,308,000	10,023,952,474	△ 165,644,474

## 活動区分資金収支計算書

平成28年4月1日から

平成29年3月31日まで

(単位：円)

		科 目	金 額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	4,044,403,380
		手数料収入	114,701,120
		特別寄付金収入	45,128,863
		経常費等補助金収入	881,750,405
		付随事業収入	5,978,894
		雑収入	149,642,422
		教育活動資金収入計	5,241,605,084
	支出	人件費支出	2,889,376,001
		教育研究経費支出	1,206,476,450
		管理経費支出	463,525,509
		教育活動資金支出計	4,559,377,960
		差引	682,227,124
		調整勘定等	42,545,708
	教育活動資金収支差額	724,772,832	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	8,885,904
		施設設備補助金収入	16,160,000
		施設設備等活動資金収入計	25,045,904
	支出	施設関係支出	112,877,275
		設備関係支出	163,361,404
		施設設備等活動資金支出計	276,238,679
		差引	△ 251,192,775
		調整勘定等	3,443,266
		施設整備等活動資金収支差額	△ 247,749,509
	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	1,750,000
		有価証券売却収入等	1,723,801,416
		特定資産取崩収入	136,828,830
		上記以外の収入	29,111,791
		小計	1,891,492,037
		受取利息・配当金収入	148,986,576
		その他の活動資金収入計	2,040,478,613
	支出	借入金等返済支出	250,250,000
		有価証券購入支出等	2,028,698,045
		特定資産繰入支出	158,875,269
		上記以外の支出	72,079,469
		小計	2,509,902,783
		借入金等利息支出	23,007,750
		その他の活動資金支出計	2,532,910,533
		差引	△ 492,431,920
		調整勘定等	△ 279,093
		その他の活動資金収支差額	△ 492,711,013
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△ 15,687,690
前年度繰越支払資金			2,711,504,525
翌年度繰越支払資金			2,695,816,835

## 事業活動収支計算書

平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで

(単位:円)

		科目	予算	決算	差異
教育活動 収入	事業活動収入	学生生徒等納付金	4,041,276,000	4,044,403,380	△ 3,127,380
		手数料	106,720,000	114,701,120	△ 7,981,120
		寄付金	44,000,000	45,128,863	△ 1,128,863
		経常費等補助金	882,555,000	881,750,405	804,595
		付随事業収入	5,843,000	5,978,894	△ 135,894
		雑収入	145,535,000	149,642,422	△ 4,107,422
		教育活動収入計	5,225,929,000	5,241,605,084	△ 15,676,084
	事業活動支出	科目	予算	決算	差異
		人件費	2,923,876,000	2,917,109,816	6,766,184
		教育研究経費	1,867,400,000	1,853,139,487	14,260,513
		管理経費	516,328,000	496,526,527	19,801,473
		徴収不能額等	8,342,000	7,683,698	658,302
		教育活動支出計	5,315,946,000	5,274,459,528	41,486,472
教育活動収支差額		△ 90,017,000	△ 32,854,444	△ 57,162,556	
教育活動外 収入	科目	予算	決算	差異	
	受取利息・配当金	143,600,000	148,986,576	△ 5,386,576	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	143,600,000	148,986,576	△ 5,386,576	
	教育活動外 支出	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	23,908,000	23,007,750	900,250
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	23,908,000	23,007,750	900,250		
教育活動外収支差額		119,692,000	125,978,826	△ 6,286,826	
経常収支差額		29,675,000	93,124,382	△ 63,449,382	
特別 収入	科目	予算	決算	差異	
	資産売却差額	287,700,000	287,573,315	126,685	
	その他の特別収入	24,445,000	28,685,851	△ 4,240,851	
	特別収入計	312,145,000	316,259,166	△ 4,114,166	
	特別 支出	科目	予算	決算	差異
		資産処分差額	2,726,000	10,847,649	△ 8,121,649
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	2,726,000	10,847,649	△ 8,121,649		
特別収支差額		309,419,000	305,411,517	4,007,483	
[予備費]		( 0 )		0	
基本金組入前当年度収支差額		339,094,000	398,535,899	△ 59,441,899	
基本金組入額合計		△ 498,011,000	△ 470,437,834	△ 27,573,166	
当年度収支差額		△ 158,917,000	△ 71,901,935	△ 87,015,065	
前年度繰越収支差額		△ 2,715,338,000	△ 2,715,337,654	△ 346	
翌年度繰越収支差額		△ 2,874,255,000	△ 2,787,239,589	△ 87,015,411	
(参考)					
事業活動収入計		5,681,674,000	5,706,850,826	△ 25,176,826	
事業活動支出計		5,342,580,000	5,308,314,927	34,265,073	

## 貸借対照表

平成29年3月31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	21,857,721,297	21,354,235,655	503,485,642
有形固定資産	18,024,647,727	18,433,353,521	△ 408,705,794
土地	5,159,337,897	5,159,337,897	0
建物	10,213,076,581	10,614,251,729	△ 401,175,148
図書	2,094,291,858	2,061,828,155	32,463,703
その他の有形固定資産	557,941,391	597,935,740	△ 39,994,349
特定資産	1,570,624,626	1,548,578,187	22,046,439
第3号基本金引当資産	457,131,000	456,866,000	265,000
退職給与引当特定資産	1,000,980,026	973,246,211	27,733,815
その他の特定資産	112,513,600	118,465,976	△ 5,952,376
その他の固定資産	2,262,448,944	1,372,303,947	890,144,997
有価証券	1,949,319,688	1,362,296,000	587,023,688
その他	313,129,256	10,007,947	303,121,309
流動資産	6,273,900,227	6,528,106,170	△ 254,205,943
現金預金	2,695,816,835	2,711,504,525	△ 15,687,690
有価証券	3,395,113,306	3,359,173,705	35,939,601
その他の流動資産	182,970,086	457,427,940	△ 274,457,854
資産の部合計	28,131,621,524	27,882,341,825	249,279,699
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,339,861,756	2,563,737,977	△ 223,876,221
長期借入金	1,310,550,000	1,559,250,000	△ 248,700,000
退職給与引当金	1,000,980,026	973,246,211	27,733,815
長期未払金	28,331,730	31,241,766	△ 2,910,036
流動負債	1,686,576,466	1,611,956,445	74,620,021
短期借入金	250,450,000	250,250,000	200,000
未払金	175,601,739	128,143,209	47,458,530
前受金	1,051,329,992	1,051,271,292	58,700
預り金	209,194,735	182,291,944	26,902,791
負債の部合計	4,026,438,222	4,175,694,422	△ 149,256,200
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	26,892,422,891	26,421,985,057	470,437,834
第1号基本金	26,068,291,891	25,662,119,057	406,172,834
第3号基本金	457,131,000	456,866,000	265,000
第4号基本金	367,000,000	303,000,000	64,000,000
繰越収支差額	△ 2,787,239,589	△ 2,715,337,654	△ 71,901,935
翌年度繰越収支差額	△ 2,787,239,589	△ 2,715,337,654	△ 71,901,935
純資産の部合計	24,105,183,302	23,706,647,403	398,535,899
負債及び純資産の部合計	28,131,621,524	27,882,341,825	249,279,699



## 財 産 目 録

平成29年3月31日

<b>I 資産総額</b>	28,131,621,524 円
内 基本財産	18,032,280,343 円
運用財産	10,099,341,181 円
<b>II 負債総額</b>	4,026,438,222 円
<b>III 正味財産</b>	24,105,183,302 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地 125,346.44 m <sup>2</sup>	5,159,337,897 円
建物 58,706.96 m <sup>2</sup>	10,213,076,581 円
構築物 184 件	242,869,488 円
図書 397,033 冊	2,094,291,858 円
教具・校具・備品 19,907 点	315,071,900 円
その他	7,632,619 円
2 運用財産	
現金預金	2,963,696,835 円
特定資産	1,570,624,626 円
有価証券	5,344,432,994 円
未収入金	115,917,162 円
立替金	35,705,209 円
差入保証金	35,066,640 円
前払金	26,363,326 円
その他	7,534,389 円
資産総額	28,131,621,524 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	1,310,550,000 円
退職給与引当金	1,000,980,026 円
長期未払金	28,331,730 円
2 流動負債	
短期借入金	250,450,000 円
前受金	1,051,329,992 円
未払金	175,601,739 円
預り金	209,194,735 円
負債総額	4,026,438,222 円
正味財産(資産総額－負債総額)	24,105,183,302 円

## 財務比率

## 1. 貸借対照表関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均
	計算式(×100)		平成27年度	
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	76.6	77.7	86.5
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	66.1	64.1	61.2
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	5.6	5.6	21.3
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	23.4	22.3	13.5
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	9.2	8.3	7.2
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	5.8	6.0	5.3
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	18.9	20.8	23.9
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	1.4	1.5	1.8
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	85.0	85.7	87.5
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	-9.7	-9.9	-13.6
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	90.0	90.7	98.9
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	81.3	82.7	91.4
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	405.0	372.0	254.1
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	15.0	14.3	12.5
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	17.6	16.7	14.3
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	257.9	256.4	342.7
退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	100.0	100.0	68.8
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	94.0	94.9	97.2
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額(図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得額(図書を除く)}}$	44.3	46.8	49.0
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	89.7	90.2	80.2

## 2. 事業活動収支計算表関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均
	計算式(×100)		平成27年度	
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	52.1	54.1	53.7
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	70.8	72.1	73.0
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.2	34.4	33.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.4	9.2	9.3
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.5	0.4	0.2
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	3.8	7.0	4.7
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}$	113.5	101.4	108.6
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	73.6	75.0	73.7
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.4	1.0	2.3
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.3	0.8	1.4
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	16.7	15.7	12.5
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	16.6	16.4	12.0
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	15.2	8.2	12.2
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	12.8	12.8	11.8
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常支出}}$	3.6	1.7	3.4
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$	0.9	-0.6	1.8

## 3. 活動区分資金収支計算書関係比率

(%)

財務比率	学校法人二松学舎			全国平均
	計算式(×100)		平成27年度	
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	13.0	13.8	13.4

注) 「全国平均」は日本私立学校振興・共済事業団の集計による医歯系を除く508大学法人の平均を示す。

## 監査報告書

平成 29 年 5 月 23 日

学校法人 二松学舎

理事会 御中

評議員会 御中

学校法人 二松学舎

監事 溝田 泰夫



監事 根本 義尚



私たちは、学校法人二松学舎の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて、学校法人二松学舎の平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）における計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）及び学校法人の業務執行状況について監査を行いました。

監査の結果、私たちは上記の計算書類は学校法人会計基準（文部科学省令第15号、平成25年4月22日公布）に準拠しており、学校法人二松学舎の平成29年3月31日現在の財産状態及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めました。また、学校法人の業務執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実のないことを確認いたしました。

以上